

第4回 茂原市総合計画審議会 会議録

日時	令和7年6月24日（火）10：00～12：00
場所	茂原市役所 議員全員協議室
出席委員	関谷昇、鈴木明子、鬼島義昭、金城学人、松本光男、丸岡一人、鈴木圭一、中山和人、麻生斎、内山雅博、中田文昭、板倉正典、保川貴俊、志水真美 （計14名、敬称略）
会議次第	1 開会 2 議題 （1）「茂原市まちづくりアンケート」の結果分析について （2）茂原市総合計画後期基本計画及び次期総合戦略の骨子案について （3）その他 3 閉会

【会議要旨】

2 議題

- （1）「茂原市まちづくりアンケート」の結果分析について
〈事務局から資料に沿って説明。〉

委員

資料5ページの「定住意向」について、資料6ページの「住み続けたい理由」を見ると、子育て環境、教育環境、文化施設が充実しているから、という理由が少ない。総合戦略の中では合計特殊出生率を上げていく、という目標を定めている中で、子育て環境や教育環境が市民から評価されていない、というのは致命的である。子育て環境や教育環境について、先進自治体の取組みを学び、それを取り入れ、アピールしていくというのが今後の基本計画の中で必要となってくる。そこに力を入れないと、合計特殊出生率は上がっていかないと考える。

事務局

委員ご指摘の部分については、事務局としても重く捉えている。施策を行っていないということではないが、PRが不足している部分があると思うので、力を入れていく。

会長

資料6ページの「住み続けたい理由」で上位の、「実家があるから」、「飲食や買い物がしやすいから」、「自然環境が豊かだから」という理由は、行政施策の結果というわけではな

いので、行政の取組が全面に押し出されると、結果も変わってくるのではないかと考える。

委員

教育についての評価は、もっと高いと思っていた。他の審議会に出席する中でも、情報発信について、本当に市民に伝わっているのか、というのが課題であるという話が出ている。行政だけでは難しいと思うので、市民や関係者の力を借りて、あるいは手分けして実施するような施策が必要と考える。

委員

保育所の入所が難しいという声をよく聞く。待機児童ゼロと言ってはいるが、希望する保育所に預けられない状況である。仕事をしたいが子どもを預けられないという状況があり、保育所に入所するために様々な対策をしている方もいて、親同士で競争になってしまっている。

また、病児保育を受けられる場所も長生郡内には白子町の1ヶ所しかないため預けづらく、結局仕事を休まないといけない状況もある。ファミリーサポートセンターも制度を利用する心理的なハードルが高い。こういったことから、子育てをしながら仕事をするのが難しく、「住みにくい」という結果、少子化に繋がっていると考ええる。

事務局

市内の待機児童はゼロとはなっているが、委員がご指摘のように希望する保育所に入れず順番待ちをしている状況であるので、次の計画の中で改善できるよう、施策を行っていく。

また、他の委員からもご指摘があったように、子育て支援策も含めて何も施策を行っていないわけではないが、アンケート結果が低いということは周知の仕方が良くなかったと考えられる。福祉部門とも連携して、情報発信については改善を図っていききたいと思う。

会長

委員のご指摘は重要な点であり、待機児童はゼロとなっているが希望が通っていない、というのは市民の求める実質が伴っていないということであり、ウェル・ビーイング指標としてはここが問われてくる。制度や施設がある、というだけではなく、実情を踏まえて施設と市民の間を埋めていく取り組みが必要となる。行政だけでは難しいが、親同士の預け合いネットワークを作っている自治体やオンライン診療で子どもの病気について相談できる体制のある自治体もある。制度と市民の間を埋め、細かな要望に応えていくというのがウェル・ビーイングで求められる視点である。

情報発信についてアピールが足りないのは、各部署が施策を「地方創生」と捉えていない点に課題があると思う。各部署で「地方創生」という捉え方で発信していかないとアン

ケートで見える満足度は上がってこないと思う。

委員

アンケートの回答率が27.1パーセントと、低いのではないかな。

事務局

前回、5年前の総合計画策定時に行ったアンケートでは、回答率は26.2パーセントであった。また、他自治体で行っている同様のアンケートでも、回答率は約2～30パーセントと聞いている。今回、オンライン回答を可能としたことで、回答率は上がったと考えている。また、高校生アンケートについては高校からの要望もあり、オンラインのみで実施したため、回答率が高かったものと考えている。

委員

資料3ページ目の、「助けてくれる人」で、「子ども」が減ったのはなぜか。また、近隣の市町村においても同様の傾向か。

事務局

分析し、次回以降お示しする。

委員

資料3ページ目の、「助けてくれる人」の結果から、地域のきずなが希薄化しているとの分析であったが、一方で、資料25ページ目を見ると、地域の人間関係について一定の評価がある。この違いはどのように考えられるのか。

事務局

資料24ページ目をご覧くださいと、地域の人間関係については「助けてくれる」以外にも様々な要素を踏まえて評価している。その点の違いで、見せ方の関係である。

会長

資料25ページは「助けてくれる」以外の要素も含まれた回答になっていると思われる。資料3ページからは「助けてくれる」人が地域から家庭に移りつつあるということが読み取れるのではないかな。

委員

資料3ページで、地域で集まる場所がないと感じている人が非常に増加しているということである。茂原市でも福祉センターが6カ所あるが、圏内でない方は、そこまで歩いて

いけない。空き家や空き店舗を活用するにしても、民と民ではなかなか貸してもらえず、官の仲介があるとありがたいと思っている。「居場所づくり」という言葉は様々な計画で目にするが、実際に確保するのは難しいと考えている。

委員

委員からあったように、集まれる場所がないと感じている。独居高齢者の居場所づくりに取り組んでいるが、難しい部分が多く、地域コミュニティの上手い繋げ方が必要だと考えている。アンケートの中で、高校生も遊びの場がないと言っているが、居場所づくりも踏まえてどのように考えるか。

事務局

集まれる場所について、物理的な「建物」を造るのは難しいので、集まれる「機会」を作る、そういった施策を検討していきたいと考える。

また、遊びの場については、駅前の活性化を、民間企業と共同で検討していく必要があると考えている。

委員

居場所づくりには物理的な場も必要であると感じる。茂原市内には地区社協が13地区あるが、集まる場のない地区社協は苦勞している。高齢者は遠方までの移動が難しく、集まれる場は必要になってくる。

会長

委員のご指摘は重要な点であり、集まる場は施策間の「横串」になりうる。いわゆるハコモノ的な場はもちろん、民間の資産を活用して、行政と市民の間をつなぐ必要が出てくる。そういった意味では空き家や会社の事務所など「場」の洗い出しが必要になってくる。間をつなぐという視点では、分野別に区切ってはいけない。そういう「場」を見つけていくのが今後大切になってくる。

(2) 茂原市総合計画後期基本計画及び次期総合戦略の骨子案について
〈事務局から資料に沿って説明。〉

委員

資料1 ページ目の策定に向けた視点を見ると、表現が回りくどいと感じる。(1)の「見据えた」を「する」に、(5)の「配慮」を「わかりやすい」にするなど、ストレートな表現の方が良いのではないか。また(3)は「財政の健全化を図る計画」など、もう一步踏み込んだ視点が必要だと考える。

また、資料２ページ目の【課題６】については水害のことばかり記載されているので、もっと行財政改革などについて触れる必要があると考える。

事務局

ご指摘については検討の上、再度お示ししたい。

委員

委員ご指摘のとおり、市民にわかりやすいというのは重要な視点である。先ほどのアンケートでも「住み続けたい」という方が１２％減少していた。８５，０００人のうち１２％というのは大きな数字であり、原因が水害にあるにせよ、その対応をどう示していくのかは重要。下がった幸福度を上げるために、市としては何に取り組んでいくのか、わかりやすく示していく必要があると思う。

事務局

先ほどからご指摘をいただいているように、情報発信には課題がある。具体的な方法がこの場では言えないが、方法を模索していきたいと思う。

副会長

全体として計画の視点から高齢者福祉に関することが抜けているように感じる。「定住」という観点からすれば、老いていくことも必要と思われるので、その点は掲載してほしい。

委員

千葉市では「子ども・若者会議」を条例化し、若い世代の意見を聞いている。総合戦略の中に「若者や女性」という言葉があるが、こうした常設の若者の会議体は意義があると思う。また、行政の会議になると依然として男性が多いが、女性の意見や目線はまちづくりに不可欠である。

また、市の「フリンジ」の部分は隣の町村の住民の生活もカバーしている。逆に大網白里市に近い方は大網白里市の施設を使うこともあり、様々なものを近隣とシェアするという考え方も重要と思う。

委員

最近では自治会の加入率が低く、活動への理解もない。人とのつながりという意味では自治会はベースとなるものであり、身近な人と繋がれば安心して住み続けることができる。自治会のPRの取り組みについても体制を強化してほしい。

会長

全体として、パーツはこれで良いと思うが、戦略性に欠ける。具体的な動きをどうするか詰めていただきたいと思う。また、アンケートなどからも課題が見えてきたと思うが、その課題にどう対応していくか、何を目玉施策として、何を進めていくのか、検討の必要がある。茂原市としてどう覚悟を決めて動いていくのかが問われていると思うので、今後検討していただきたいと思う。

現在は地域の潜在的な力のつなげ方が弱いと感じており、様々な資源の洗い出しが必要になってくる。上手くいっていることと上手くいっていないことが次のアクションに繋がっていない。光の当たっていない場所に光を当て、市民のやる気をどう引き出していくのか。行政としての仕掛け方が問われている。例えば、高校生が提案できる場づくりなどが考えられる。

また、行財政改革と聞くと「コストカット」が想像されるが、国の補助金を取りに行く必要がある。例えば「全部署が新しい補助金を3つ以上活用すること」とか、徹底した取り組みが求められる。この資料には課題1～8が挙げられているので、プロジェクトチームを作って取り組むとか、コンセプト作りが必要になってくる。

(3) その他

〈事務局にて、今後のスケジュールの確認〉

以上